

2024年度 生協会計学習会開催報告

◇日時 2024年9月17日(火) 午後1時30分から午後4時30分

◇場所 ウィンクあいち 会議室 (ハイブリッド開催)

◇開催目的

会計に係る基礎知識の習得及び、経営分析手法の習得により、
経営分析力の向上を図り、各生協の健全な組織運営に役立てる

◇講師: 日本生活協同組合連合会

管理本部 経理部 川淵笑子様

◇参加者22名(11生協19名、県連3名)

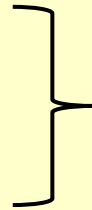
トヨタ車体3名、東海コープ1名、名古屋工業大学1名、愛知県職員2名、
トヨタ1名、一宮1名、名古屋市民火災共済1名、あいち2名、かりや愛知
中央3名、生活クラブ3名、中部電力1名、県連3名

1. 決算関係書類(等)とは

(1) 決算関係書類 = 生協の事業・活動を数値で表した書類のこと

① 貸借対照表

② 損益計算書



経営分析を行う際の主要な書類

③ 剰余金処分案又は損失処理案

④ 注記

(2) 事業報告書

(3) 決算関係書類の附属明細書

(4) 事業報告書の附属明細書

(5) (監事) 監査報告書

2. 経営分析とは

目的

▼企業評価目的

- ・生協の外部者（債権者、組合員、行政など）が生協の経営を評価するために行う。
- ・経営や事業上の財務リスクの発見（不良資産の有無など）

▼経理管理目的

- ・生協の内部者（特に経営責任者）が、生協の経営実態を詳細に把握するために行う。
- ・自生協の経営・事業の強みおよび弱みを把握する
- ・数値目標を明確にするなど

3. 収益性の分析

▼ 剰余金(利益)をどれだけ獲得したかを分析することをいう

資本の効率性 総資本剰余率 = 剰余金 / 総資本
事業の効率性 供給高剰余率 = 剰余金 / 供給高

▼ 総資本からどれだけの経常剰余金を生み出したか

総資本経常剰余率(ROA) = 経常剰余金 / 総資本 × 100

▼ 総資本を利用してどのくらいの総事業高を上げているか

総資本回転率 = 総事業高 / 総資本

▼ 固定資産が有効活用されているか、過剰な設備投資が行われていないか

固定資産回転率 = 総事業高 / 固定資産残高 (回)

4. 安全性の分析

※支払能力や財務体質をみることで倒産の危険性がないかをチェックする

▼短期的な資金の調達と運用のバランスを見る

$$\text{流動比率} = \text{流動資産} / \text{流動負債} \times 100$$

▼最も安定した資金である自己資本で賄われている比率から安全性を見る

$$\text{固定比率} = \text{固定資産} / \text{自己資本} \times 100$$

▼総資本に占める自己資本の割合から安全性を見る

$$\text{自己資本比率} = \text{自己資本} / \text{総資本} \times 100$$

5. 生産性の分析

※生産性分析とは生産能率の良し悪しをみるもの

▼従業員一人当たりが生み出した付加価値(=事業総剰余金)を示す指標

$$\text{労働生産性} = \text{事業総剰余金} / \text{常勤者数}$$

▼付加価値(=事業総剰余金)からどのくらい人件費として分配したか

$$\text{労働分配率} = \text{人件費} / \text{事業総剰余金}$$

※労働分配率が低いと従業員の勤労意欲が低下したり、優秀な人材の確保が難しくなるといったことがある

6. ケーススタディ ▼A生協とB生協の経営分析シート比較

◇生協会計学習会での学び

経営分析を行う際の主要な書類である貸借対照表、損益計算書の基礎を正しく理解したうえで、経営分析手法を学んだ
また、経営分析の目的を経営活動の成果や経営上の問題把握から、次の事業活動に繋げるという観点であることを学んだ